

2026年3月期第1四半期

Fly to the next stage!

決算説明

ヤマシンフィルタ株式会社
2025年8月29日



| エグゼクティブサマリー

- ◆ 当社グループへの関税影響は極めて軽微であり、建機用フィルタ事業における業績は想定を上回る水準で推移する見通し
- ◆ エアフィルタ事業は、基幹システム入れ替えによる出荷遅延の影響等により減収減益見通し、第2四半期中に供給体制の安定化と業績回復に取り組む

事業環境	2026年3月期第1四半期業績動向	2026年3月期見通し
市場 建機用フィルタ エアフィルタ ビジネスモデル別 ライン 補給 地域別 日本 北米 アジア 欧州 中国 主要原材料 エネルギーコスト 高止まり 高止まり	連結売上高：50億96百万円 前期比：5.8%増収 連結営業利益：6億59百万円 前期比：10.0%増益 ※自己資本比率：81.4% 建機用フィルタ エアフィルタ 45億55百万円 5億40百万円 前期比：(+8.0%) 前期比：(△9.9%)	連結売上高：204億20百万円 前期比：1.6%増収 連結営業利益：27億20百万円 前期比：3.4%増益 ※自己資本比率：81.3% 建機用フィルタ エアフィルタ ・ライン品需要は回復し堅調に推移する見通し ・補給品需要は堅調に推移する見通し ・オペレーションの安定化とROICの改善が急務

2026年3月期第1四半期実績及び 2026年3月期通期業績見通し

| 2026年3月期第1四半期実績

2026年3月期第1四半期実績（2025/4-6）

PLセグメント別（連結、建機、エア）

- ◆ 建機用フィルタ事業における新車需要は回復基調に転じ、増収増益
- ◆ エアフィルタ事業は、基幹システム入れ替えによる出荷遅延等により減収減益

		2025/3期 Q1 実績	2026/3期 Q1 実績	前年同期比	
		金額（百万円）	金額（百万円）	増減額（百万円）	増減率
売上高		4,817	5,096	278	5.8%
	建機用フィルタ※	4,217	4,555	338	8.0%
	エアフィルタ	599	540	△59	△9.9%
営業利益（セグメント利益）		599	659	60	10.0%
	建機用フィルタ※	596	739	143	24.1%
	エアフィルタ	3	△80	△83	—
営業利益率		12.4%	12.9%	0.5Pt	
経常利益		559	647	88	15.8%
経常利益率		11.6%	12.7%	1.1Pt	
四半期純利益		386	417	31	8.1%
四半期純利益率		8.0%	8.2%	0.2Pt	
為替レート（円） （期中平均値）	USD	155.9	144.6	△11.3	△7.2%
	EUR	167.9	163.8	△4.1	△2.4%

※ 「建機用フィルタ」には、建機用フィルタ、産業用フィルタ、プロセス用フィルタを含んでおります。

- ◆ 建機用フィルタ事業における新車需要は回復基調に転じ増収、補給品需要も引き続き堅調に推移
- ◆ エアフィルタ事業は、基幹システム入れ替えによる出荷遅延等により大幅減収

■ 製品別売上高

		2025/3期 Q1 実績	2026/3期 Q1 実績	前年同期比	
		金額（百万円）	金額（百万円）	増減額（百万円）	増減率
建機用フィルタ		3,858	4,184	326	8.5%
	ライン品	1,409	1,630	220	15.7%
	補給品	2,449	2,554	105	4.3%
産業用フィルタ		170	190	19	11.6%
プロセス用フィルタ		187	180	△7	△4.2%
建機用フィルタ 合計		4,217	4,555	338	8.0%
エアフィルタ		599	540	△59	△9.9%
売上高合計		4,817	5,096	278	5.8%

- ◆ 北米・アジアを中心に新車需要は回復傾向、
補給品需要はアジアでのインフラ投資推進により増加

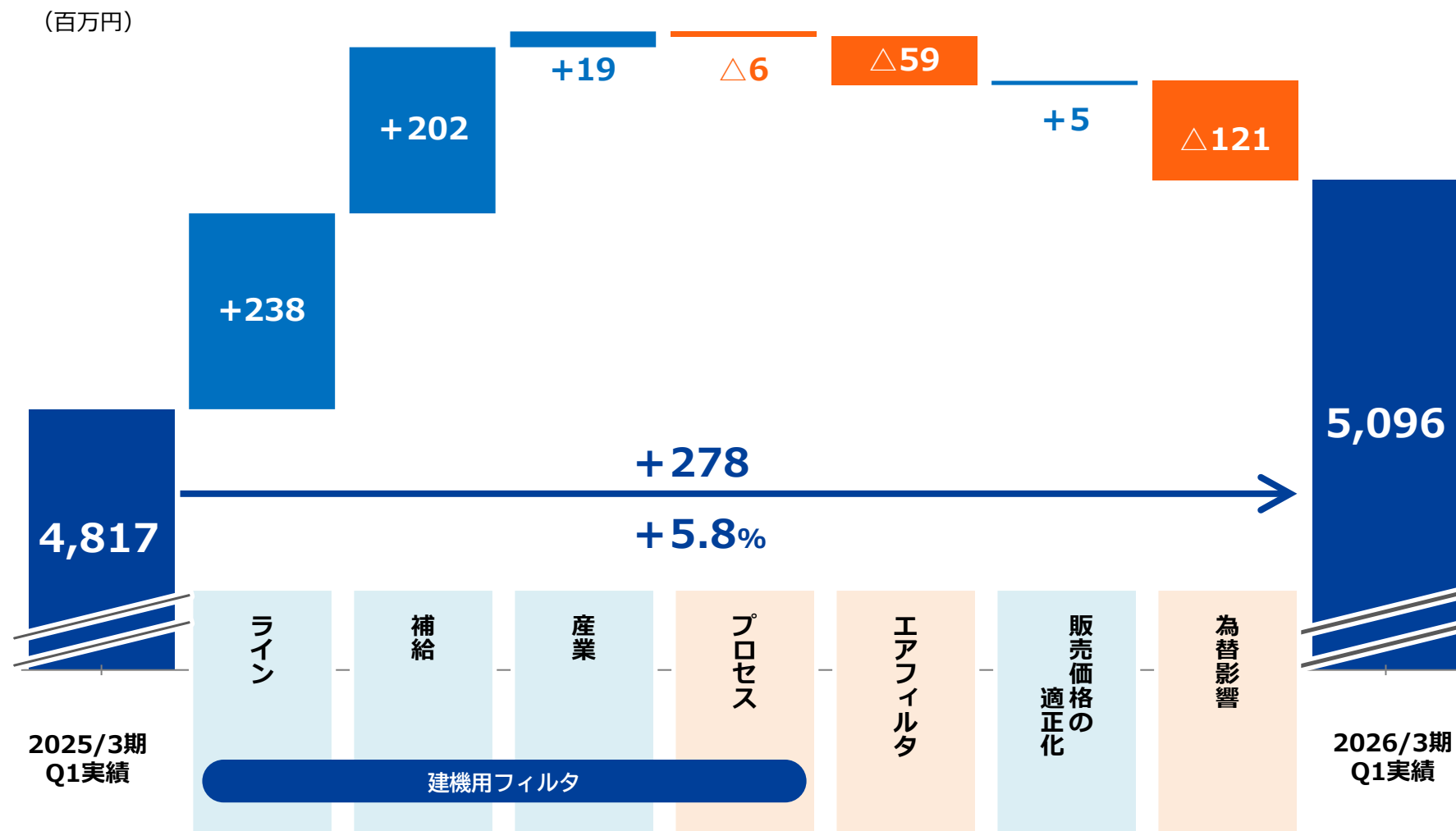
■ 地域別売上高

		2025/3期 Q1 実績		2026/3期 Q1 実績		前年同期比	
		金額（百万円）	構成比	金額（百万円）	構成比	増減額（百万円）	増減率
建機用フィルタ※		4,217	87.5%	4,555	89.4%	338	8.0%
	国内	1,772	36.8%	1,734	34.0%	△37	△2.1%
	北米	1,007	20.9%	1,078	21.2%	71	7.1%
	中国	319	6.6%	403	7.9%	83	26.1%
	アジア	580	12.0%	863	17.0%	283	48.9%
	欧州	536	11.1%	449	8.8%	△87	△16.2%
	その他（中東他）	2	0.0%	26	0.5%	24	—
エアフィルタ（国内）		599	12.5%	540	10.6%	△59	△9.9%
売上高合計		4,817	100.0%	5,096	100.0%	278	5.8%

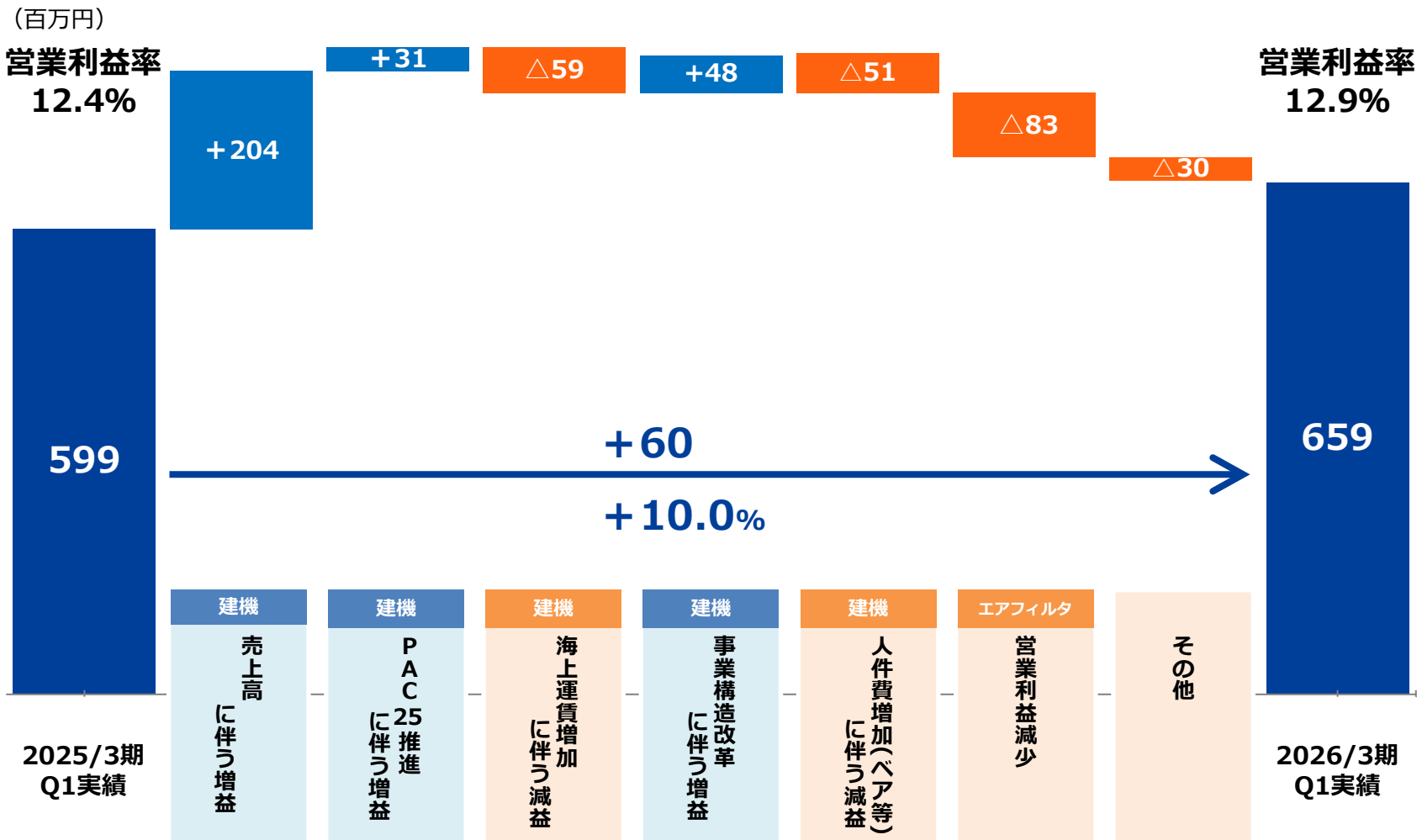
※ 「建機用フィルタ」には、建機用フィルタ、産業用フィルタ、プロセス用フィルタを含んでおります。

* 上記の地域別の数値は請求書送付先基準で集計しております。

- ◆ 主力事業の建機用フィルタ事業における販売数量増によりエアフィルタ減収を相殺



- ◆ 主力事業である建機用の販売数量の増加により増益を図り、外部環境の変化に伴うリスクへの対処として原価低減の取組みや事業構造改革により営業利益率の改善を実現

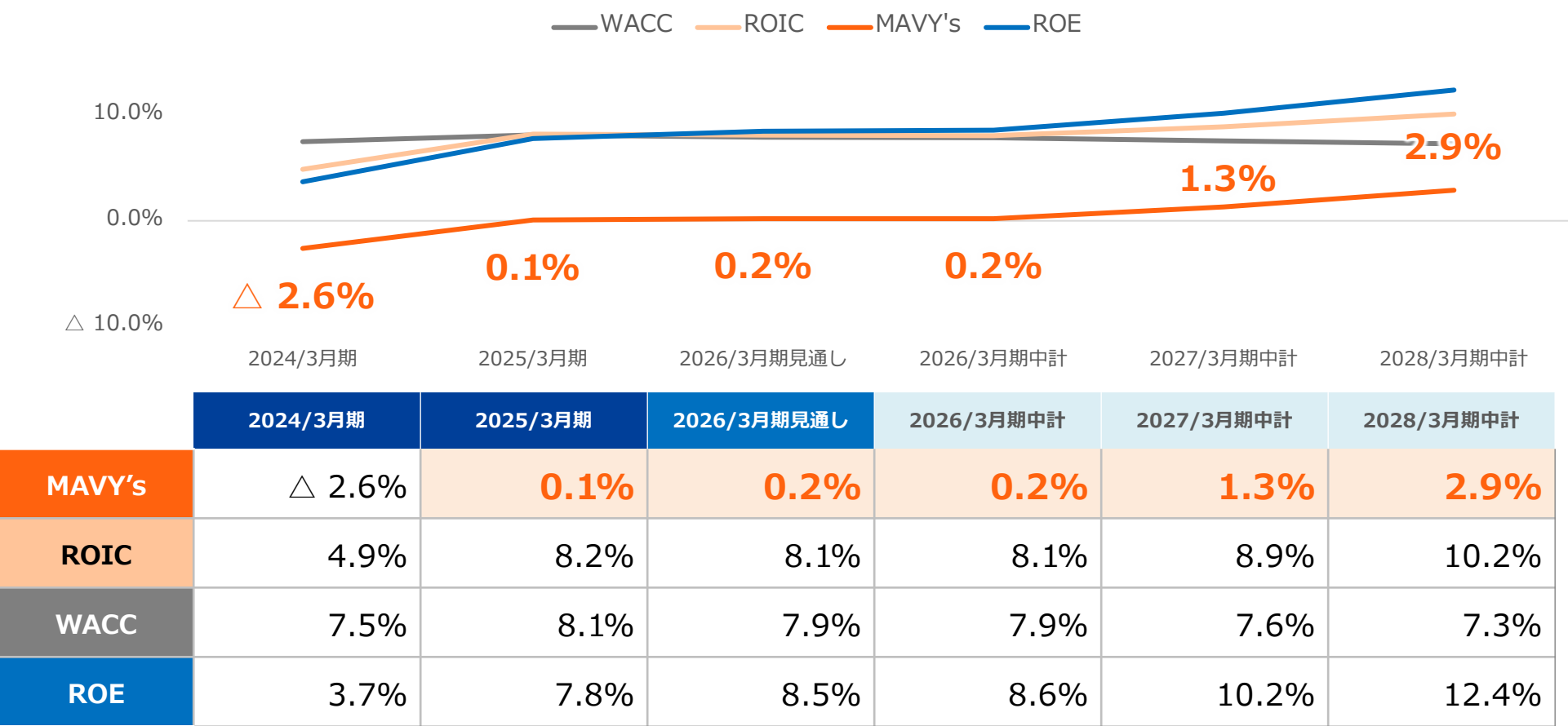


| 2026年3月期通期業績見通し

2026年3月期見通し（2025/4-2026/3）

KPI進捗（MAVY's、ROIC、WACC、ROE）

- ◆ 企業価値を示すMAVY'sの改善は中期経営計画通り着実に進展
- ◆ 2025年3月期には7年ぶりにMAVY'sプラス転換を達成
- ◆ 2026年3月期においても、中期経営計画で掲げた目標値は達成見通し



2026年3月期見通し（2025/4-2026/3） PLセグメント別（連結、建機、エア）

◆ 通期の業績見通しの変更無し、業績は想定を上回る水準で推移する見通し

		2024/3期 実績	2025/3期 実績	2026/3期 見通し	前期比
		金額（百万円）	金額（百万円）	金額（百万円）	増減額（百万円）
売上高		18,024	20,104	20,420	315
	建機用フィルタ※	15,382	17,489	17,770	280
	エアフィルタ	2,642	2,615	2,650	34
営業利益（セグメント利益）		1,411	2,630	2,720	89
	建機用フィルタ※	1,320	2,554	2,645	90
	エアフィルタ	91	75	75	0
営業利益率		7.8%	13.1%	13.3%	0.2Pt
経常利益		1,415	2,669	2,750	80
経常利益率		7.9%	13.3%	13.5%	0.2Pt
当期純利益		786	1,723	1,910	186
当期純利益率		4.4%	8.6%	9.4%	0.8Pt
為替レート（円） （期中平均値）	USD	144.6	152.6	145.0	△5.0%
	EUR	156.8	163.8	165.0	0.8%

※ 「建機用フィルタ」には、建機用フィルタ、産業用フィルタ、プロセス用フィルタを含んでおります。

2026年3月期見通し（2025/4-2026/3） 売上高（製品別）

- ◆ 高付加価値製品の供給によるシェア拡大戦略により、ライン品は増収見通し
- ◆ 補給品売上高は堅調維持

■ 製品別売上高

		2024/3期 実績		2025/3期 実績		2026/3期 見通し		前期比	
		金額 (百万円)	構成比	金額 (百万円)	構成比	金額 (百万円)	構成比	増減額 (百万円)	増減率
建機用フィルタ		14,008	77.7%	16,080	80.0%	16,386	80.2%	305	1.9%
	ライン品	5,731	31.8%	5,599	27.9%	5,981	29.3%	382	6.8%
	補給品	8,276	45.9%	10,481	52.1%	10,405	51.0%	△76	△0.7%
産業用フィルタ		648	3.6%	708	3.5%	672	3.3%	△36	△5.1%
プロセス用フィルタ		725	4.0%	699	3.5%	711	3.5%	11	1.6%
建機用フィルタ 合計		15,382	85.3%	17,489	87.0%	17,770	87.0%	280	1.6%
エアフィルタ		2,642	14.7%	2,615	13.0%	2,650	13.0%	34	1.3%
売上高合計		18,024	100.0%	20,104	100.0%	20,420	100.0%	315	1.6%

2026年3月期見通し（2025/4-2026/3） 売上高（地域別）

◆ 北米中心に新車需要は増加傾向、補給品市場は引き続き堅調維持する見通し

■ 地域別売上高

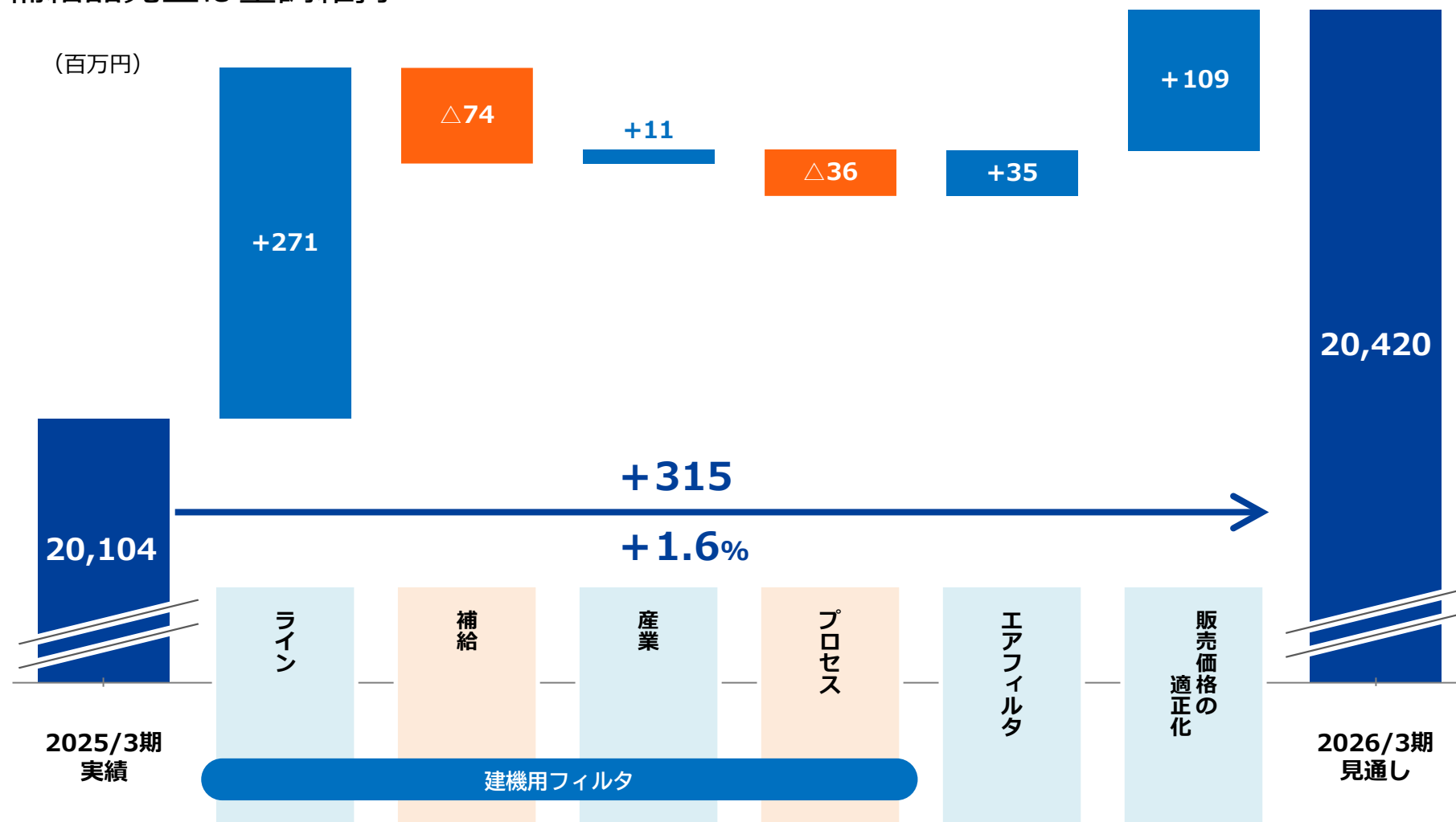
		2024/3期 実績		2025/3期 実績		2026/3期 見通し		前期比	
		金額 (百万円)	構成比	金額 (百万円)	構成比	金額 (百万円)	構成比	増減額 (百万円)	増減率
建機用フィルタ※		15,382	85.3%	17,489	87.0%	17,770	87.0%	280	1.6%
	国内	6,990	38.8%	6,900	34.3%	6,816	33.4%	△84	△1.2%
	北米	3,249	18.0%	4,590	22.8%	4,856	23.8%	266	5.8%
	中国	1,218	6.8%	1,246	6.2%	1,354	6.6%	107	8.6%
	アジア	2,051	11.4%	2,670	13.3%	2,698	13.2%	27	1.0%
	欧州	1,869	10.4%	2,073	10.3%	1,891	9.3%	△182	△8.8%
	その他（中東他）	3	0.0%	7	0.0%	152	0.7%	145	—
エアフィルタ（国内）		2,642	14.7%	2,615	13.0%	2,650	13.0%	34	1.3%
売上高合計		18,024	100.0%	20,104	100.0%	20,420	100.0%	315	1.6%

※ 「建機用フィルタ」には、建機用フィルタ、産業用フィルタ、プロセス用フィルタを含んでおります。

* 上記の地域別の数値は請求書送付先基準で集計しております。

2026年3月期見通し（2025/4-2026/3） 売上高増減グラフ（前期比）

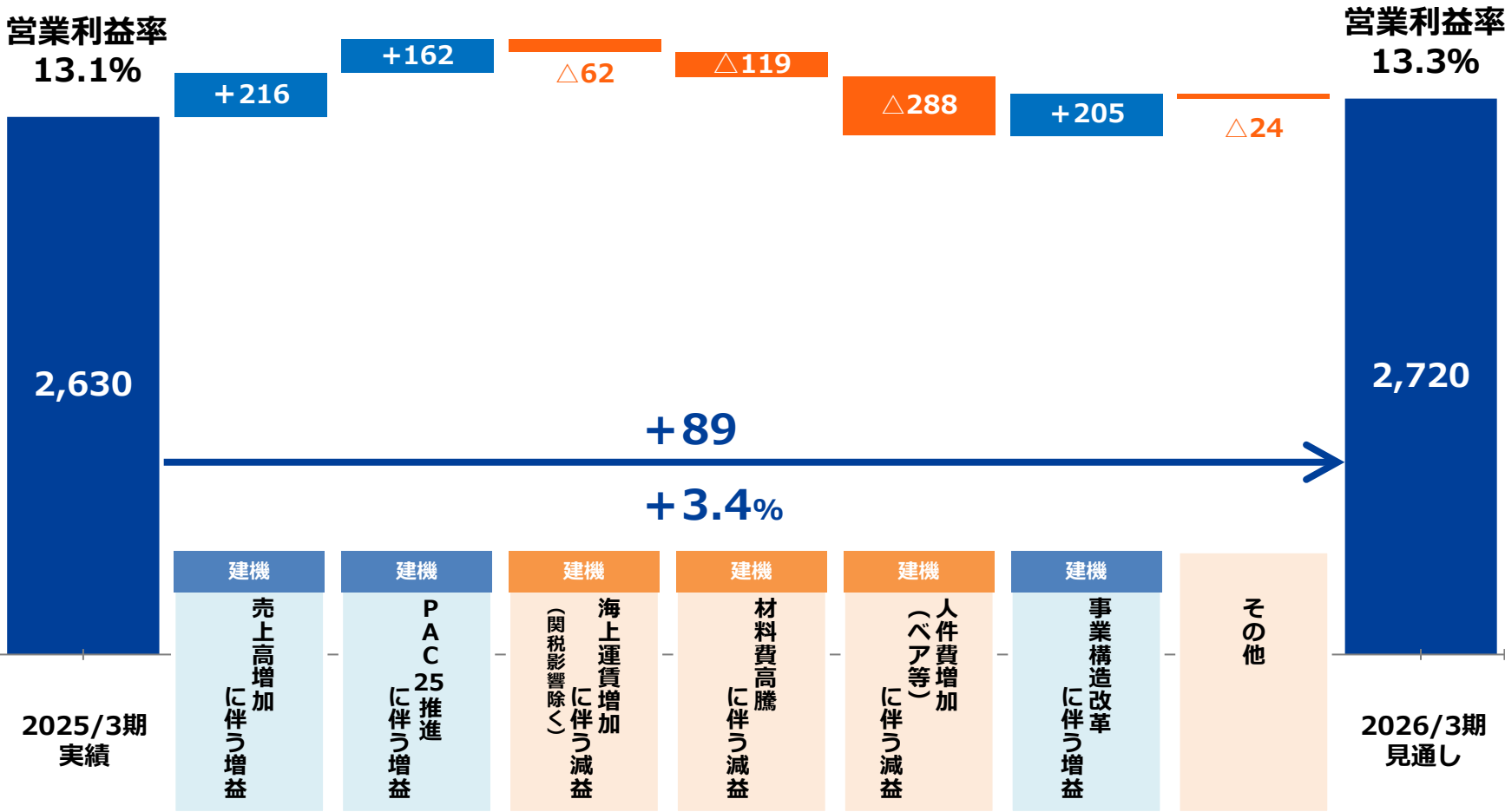
- ◆ 高付加価値製品の供給によるシェア拡大戦略により、ライン品は増収見通し
- ◆ 補給品売上は堅調維持



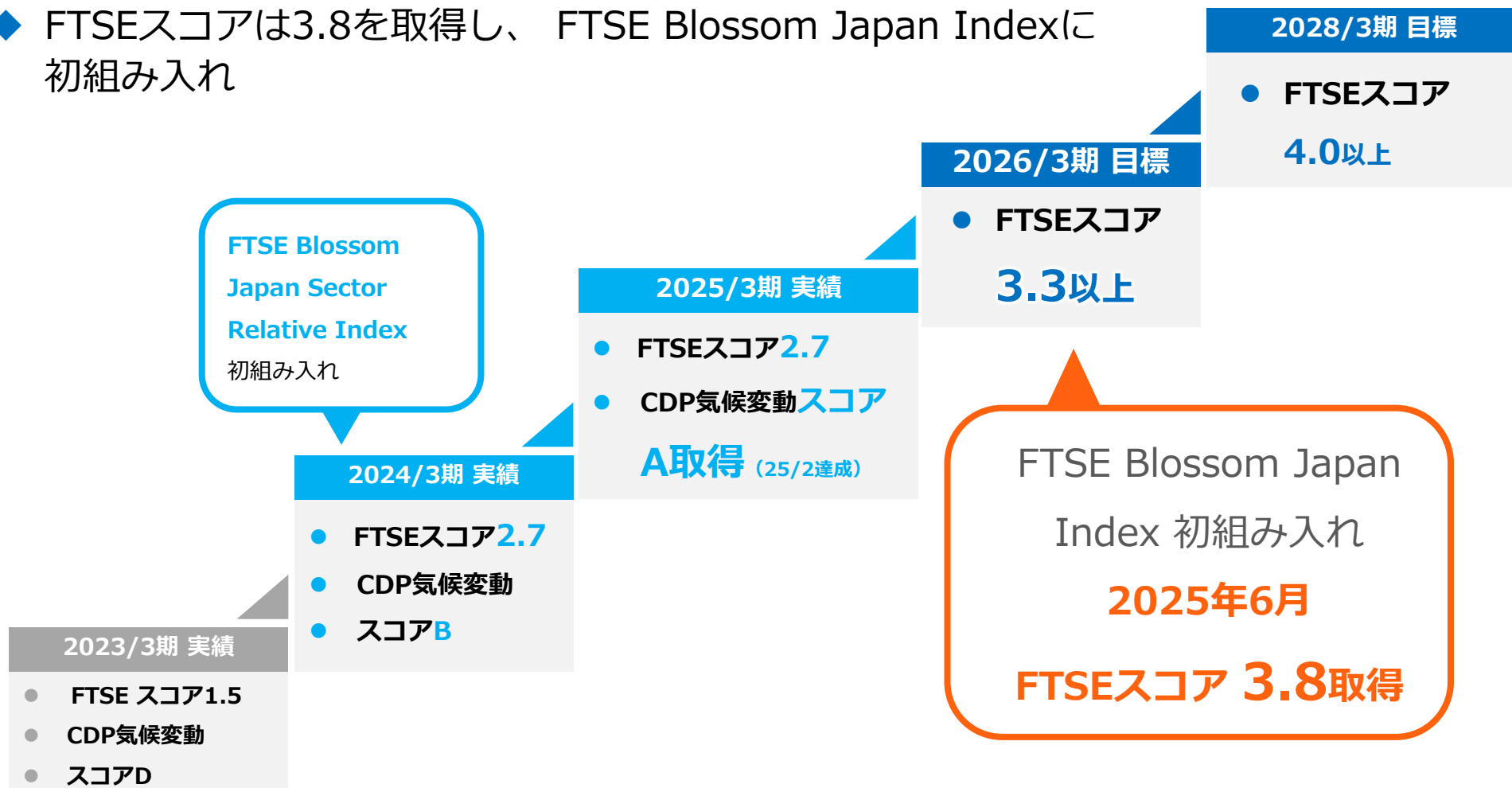
2026年3月期見通し（2025/4-2026/3）
営業利益増減グラフ（前期比）

- ◆ 事業構造改革や原価低減の取り組みにより固定費の増加を抑制、業績は想定を上回る水準で推移する見通し

（百万円）



- ◆ 非財務情報KPIのCDPスコアはCDP気候変動2024において「Aリスト企業」に初認定され、2028年3月期の中計目標を前倒しで達成済み
- ◆ FTSEスコアは3.8を取得し、FTSE Blossom Japan Indexに初組み入れ



2026年3月期第1四半期 建機市場を取り巻く環境

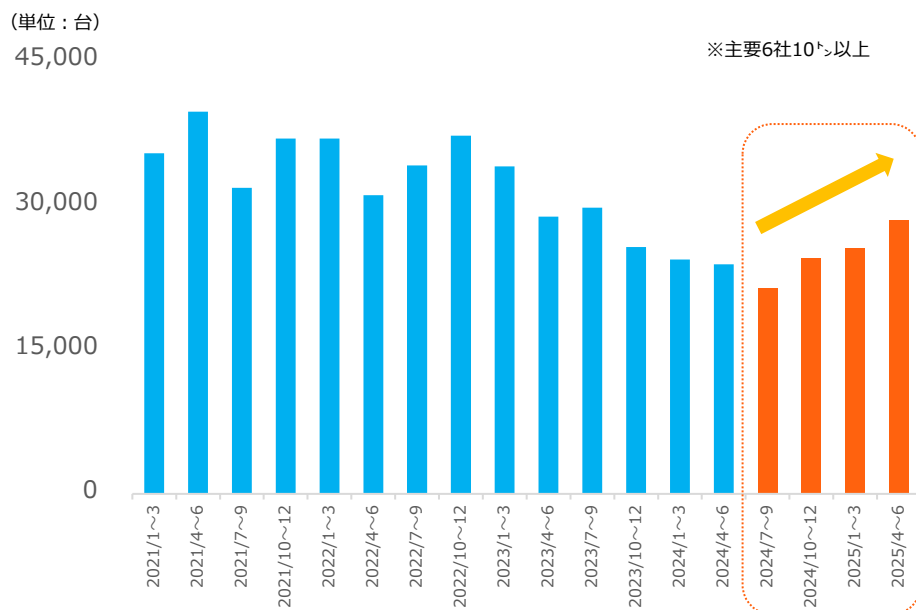
- ◆ アジア・北米では新車需要は横ばい、補給品市場は堅調を維持
- ◆ 鉱山機械は資源価格の動向次第も、今後の部品需要は安定推移する見通し

	2025年3月期	2026年3月期 1Q実績	2026年3月期見通し
日本	原材料価格は高止まり レンタル向け減少により前年比減	原材料価格は高止まり レンタル向け新車需要は前年比減少	新車需要は前年並みか微減を想定
北米	主要原材料価格は高止まり、円安継続 住宅着工件数減少により前年比減 アフターマーケットは好調	関税・為替の動向は不透明 新車需要は回復基調に転じ前年比増加	関税・為替動向は不透明だが影響は軽微 新車需要は前年比上回る想定 アフターマーケットは堅調維持
欧州	主要国の需要減により前年比減少	主要国の需要減により アフターマーケットは 前年比減少	新車需要は前年並みか微減を想定
アジア	インドネシア中心に建機、鉱山機械の 需要回復により前年比増 アフターマーケットは好調	インドを中心に建機・鉱山機械の 需要が堅調に推移し前年比増加 アフターマーケットは好調	資源価格の不透明さから 新車需要は弱含み アフターマーケットは堅調維持
中国	需要低迷が継続	不動産市況は低迷するも 鉱山機械の新車需要の増加により 前年比増加	不動産市況は低迷するも 鉱山機械の新車需要は増加傾向

- ◆ 生産計画台数は2024年をボトムに、以降は回復局面が継続
- ◆ 新車需要は不透明ながら、メンテナンス需要は堅調な需要環境を維持
- ◆ 販売価格の適正化の効果もあり、受注残高は緩やかに増加傾向

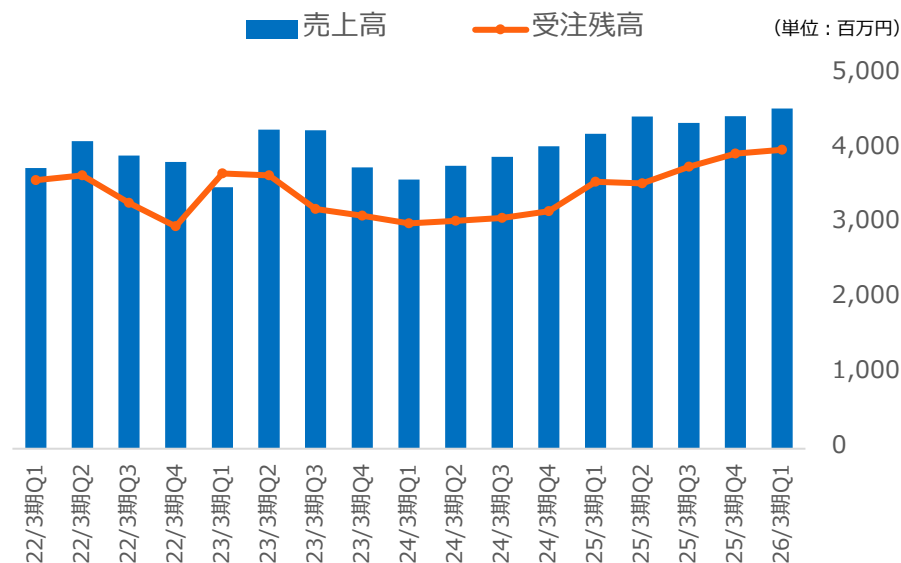
主要建機メーカー合計生産実績 (四半期推移)

新車生産は回復基調へ移行

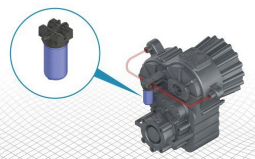
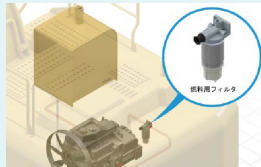
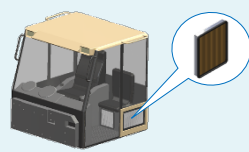
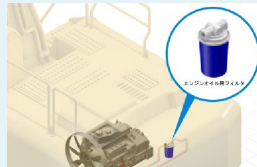
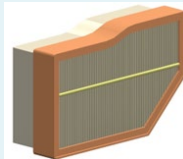


建機用フィルタ売上高と確定受注残高 (四半期推移)

補給部品の需要は堅調にて推移 受注は緩やかに増加傾向



- ◆ 油圧用フィルタなど得意な製品群を中心にモデルチェンジを確実に獲得
- ◆ 主力製品 & 新規製品のシェア獲得戦略は順調に進捗

製品 顧客	※油圧用フィルタ	トランスミッション用 フィルタ	燃料用フィルタ	キャビン用 フィルタ	エンジンオイル用 フィルタ	エンジン用 エアフィルタ
						
A社	◎	△	◎	◎	△	△
B社	△	◎	△	△	△	△
C社	○	△	△	△	△	△
D社	◎	-	△	△	△	△
E社	◎	△	△	△	△	△

◎ : シェア80.0%以上、○ : シェア50.0%以上80%未満、△ : シェア50%未満

※油圧用フィルタは、油圧ショベル、ホイールローダー、ブルドーザー、ダンプトラック、モーターグレーダー、クローラクレーン等の機種に搭載

※2024年11月に発表した中期経営計画から、集計対象機種を見直したため、表内のシェア表示が変更になっております。

- ◆ 建機の市場台数で構成される補給市場において、当社の成長余地は大きい
- ◆ 顧客と協業して現地ニーズに即した販促活動することで、確固たる収益基盤を実現
- ◆ どの顧客からも高い評価を受けており、他地域など活動の拡張性も高い

アフターマーケット向け啓発活動への評価

日立建機アジア・パシ
フィック Pte. Ltd.社
より表彰

2年連続受賞
**Appreciation
Award**



受賞理由

サービスマンや代理店/ユーザーに向けて、**フィルタ知識や純正品の必要性とメリットを伝える活動が評価。**

特に日立建機アジア・パシフィック Pte. Ltd.社の東南アジア市場販売網強化戦略に基づくベトナム新規代理店向けの活動に大きく貢献したことを評価された。

顧客サプライチェーンの効率化に対する評価

日立建機タイランド
Co., Ltd.社より
表彰

**Supply Chain
Excellence
Award**



受賞理由

商物流改善による日立建機グループの**サプライチェーンの更なる効率化**（受発注業務簡略化・在庫適正化に伴うコスト削減貢献）を高く評価されて受賞。

| 中期経営計画 Fly to the next stage! 進捗と今後の戦略

中期経営計画 1 年目（2026年3月期）の進捗状況

- ◆ 中期経営計画は計画通り着実に進展、業績は想定を上回る水準で推移する見通し
- ◆ 資本政策の一環として、発行済株式の2%の自己株式の取得償却を実施
- ◆ 新規事業の新素材開発は計画通り順調に進行中、企業価値向上に向けた新たなビジョン・エクイティストーリーの公表を予定

2026年3月期 見通し		中計数値計画に 織り込んでいない領域	
建機用フィルタ		エアフィルタ	
■ 売上高	177億70百万円 (1 Q達成率 25.6%)	■ 売上高	26億50百万円 (1 Q達成率 20.3%)
■ セグメント利益	26億54百万円 (1 Q達成率 27.8%)	■ セグメント利益	75百万円 (1 Q達成率 -106.7%)
■ MAVY's (独自指標)	1.7%	■ MAVY's (独自指標)	-6.6%
新規事業領域			
		■ 断熱素材開発 伸縮性・吸湿発熱性を持った アパレル向け中綿材において 商談が順調に進展中	
		■ 導電素材開発 生体電極（スマートテキスタイル） 向け導電不織布に関する 特許出願準備中	
今期重点施策		今期重点施策	
■ 多様なアプローチによるシェア拡大 ■ 高付加価値製品の導入 ■ アフターマーケット活動の進化		■ 既存商流の強化 ■ 直販体制の強化 ■ ろ材の拡販	
		■ 有望市場に対する導入プロモーション ■ タイアップ顧客とプロトタイプ製品開発 ■ 安定供給に向けた設備改良	

企業価値向上に向けた新たなビジョン・エクイティストーリーを
11月20日に発表予定

現在想定している公表内容

Yamashin Vision 2030 /
新事業の展望を含む新たなエクイティストーリー

2026年3月期 第2四半期決算説明会

(2025年11月20日) 動画配信にてご案内予定

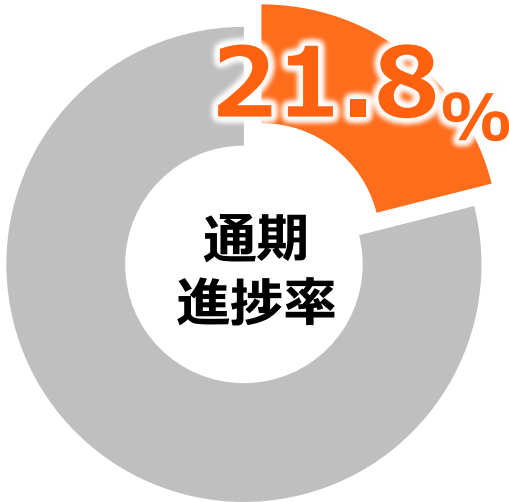
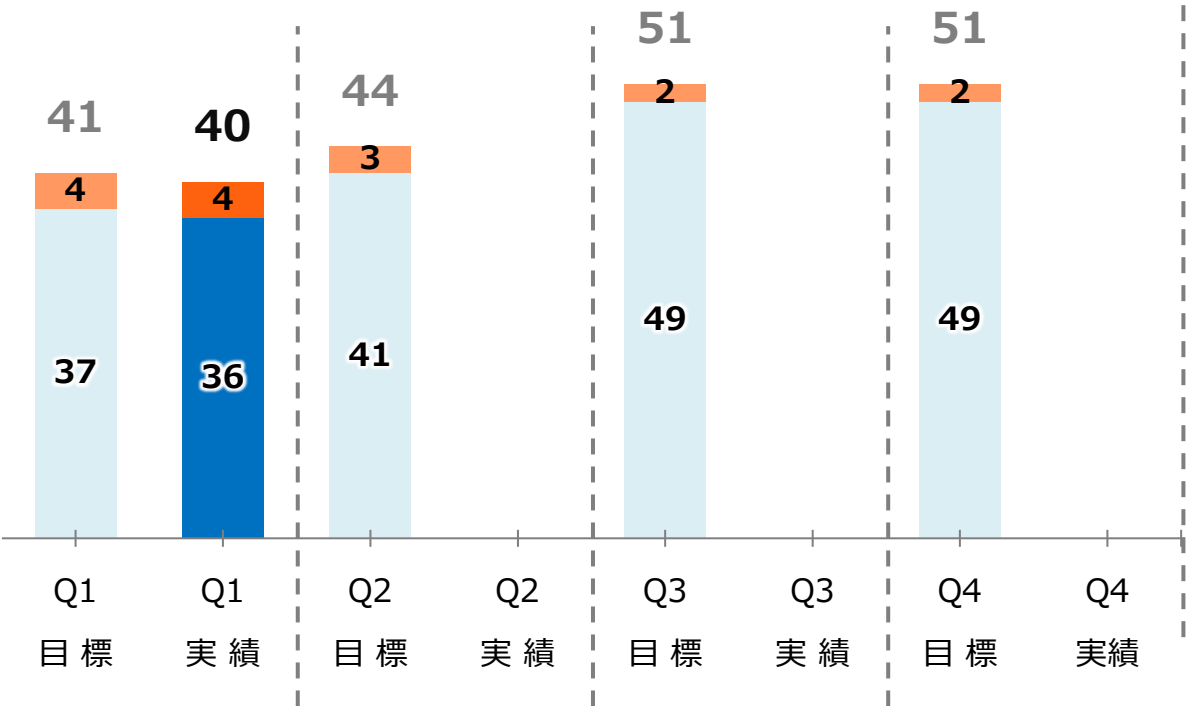
参考資料

–2026年3月期 第1四半期決算にかかる補足情報

◆ PAC25の取組みは着実に進展

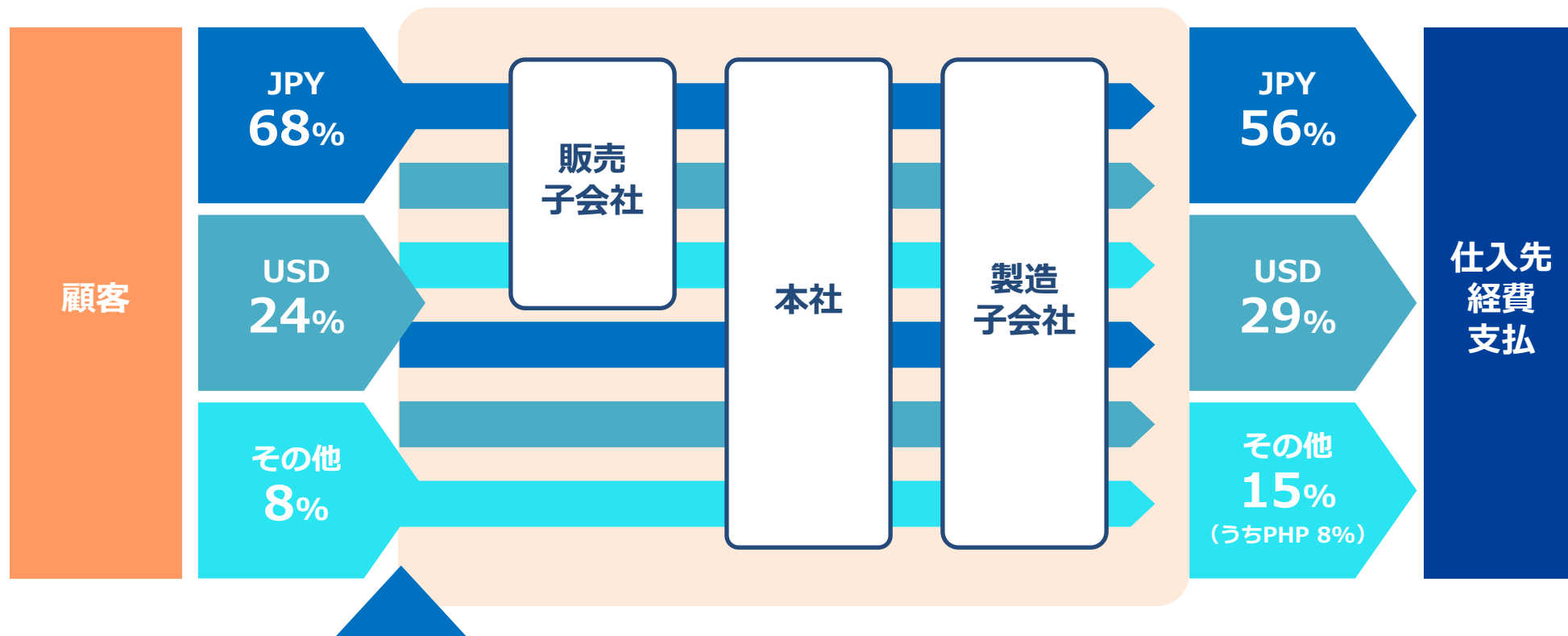
■ 進捗状況（前期比）
（単位：百万円）

■ 製造原価 ■ 販管費



単位 百万円		通 期 標	通 期 績
PAC25	製造原価	177	36
	販管費	13	4
合 計		190	40

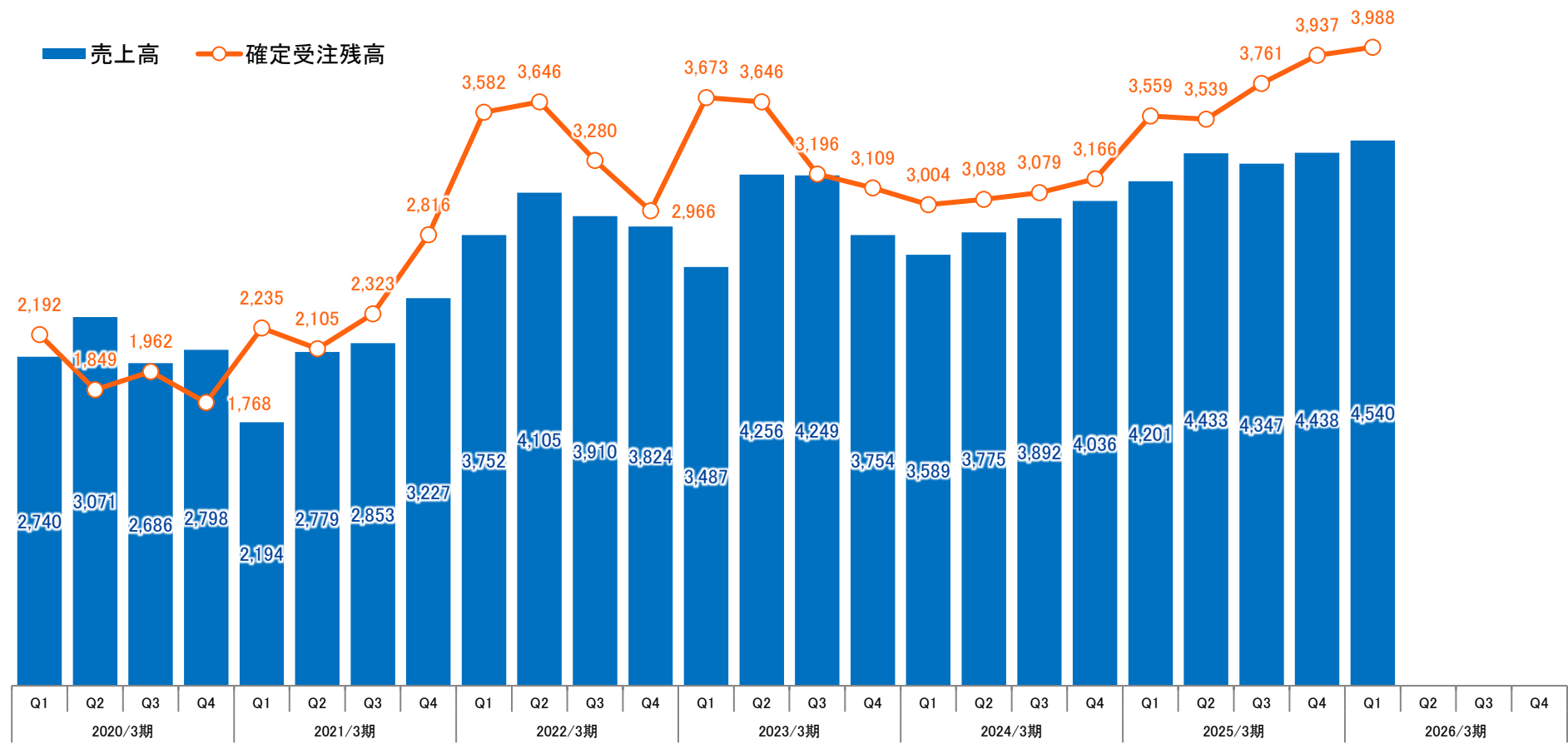
- ◆ 為替感応度は▲0.24%、営業利益への影響額は軽微



取引通貨の約7割はJPY

確定受注残高と売上高の推移 (建機用フィルタビジネス)

(単位：百万円)



※ 売上高にはヘルスクエア売上を含めておりません。

参考資料

中期経営計画 Fly to the next stage! の概要

「仕濾過事」を具現化し、新たなステージへ

建機用フィルタ

- 多様なアプローチによるシェア拡大
- 高付加価値製品の導入
- アフターマーケット活動の進化

エアフィルタ

- 既存商流の強化
- 直販体制の強化
- ろ材の拡販

企業価値を向上させる MAVY's経営の実践

財務情報 KPI (2028/3期)

- MAVY's (独自指標) **2%**以上
- ROIC **10%**以上
- WACC **7.3%**

株主還元 KPI (2028/3期)

- DOE **10%**
- 配当性向**80%**

非財務情報 KPI (2028/3期)

ESG 投資指数

- FTSEスコア**4.0**以上
- CDP気候変動 スコア**A**取得



サステナブルな社会の実現 を目指したESG経営

MAVY

企業価値向上に向けた定量目標として財務情報、
非財務情報、株主還元情報を区分しKPIとして設定

財務

非財務

株主還元情報

稼ぐ力

ROIC

資本調達
コスト
WACC

企業価値

MAVY's

投下した資本に対する
収益率

ROICが高いほど
効率的に資本を活用し収益を生み出している

コストを上回る価値
を生み出しているか

+の値であれば、
資本調達コストを上回る価値を生み出している

目指すべき定量目標（建機用フィルタ）

1

3軸によるシェア拡大
（顧客軸・技術軸・地域軸）

2

高付加価値製品

3

アフターマーケット市場の進化

Key Goal Indicator (KGI)

Key Performance Indicator (KPI)

Key Success Factor (KSF)

責任部署

※KPI算定の前提

Prv : 2025/3期 通期実績
Cur : 2026/3期 見通し

売上高営業利益率
Prv: 14.6%
Cur: 14.9%

売上総利益率
Prv:46.3 %
Cur:46.9%

販管費率
Prv:31.7 %
Cur:32.0%

運転資本回転率
Prv:3.0
Cur:2.9

固定資産回転率
Prv:2.0
Cur:2.1

売上高伸長率
Prv:13.7%
Cur:1.6%

売上原価率
Prv:53.7%
Cur:53.1%

減価償却費率
Prv:3.6%
Cur:3.1%

研究開発費率
Prv:2.4%
Cur:2.8%

人件費率
Prv:15.5%
Cur:15.6%

売上債権回転率
Prv:4.4
Cur:4.3

棚卸資産回転率
Prv:5.4
Cur:5.6

仕入債務回転率
Prv:7.2
Cur:8.0

有形固定資産回転
Prv:2.3
Cur:2.3

無形固定資産回転率
Prv:81.9
Cur:78.7

ROIC
Prv:10.2%
Cur:9.6%

MAVY's
Prv:2.0%
Cur:1.7%

WACC
Prv: 8.1%
Cur: 7.9%

投下資本回転
Prv: 0.9
Cur: 0.9

新製品開発
純正率向上

購買力強化
歩留り改善

投資計画

テーマの絞り込み
優先順位

最適な人員構成

債権管理

適正在庫の設定

債務管理

設備計画
（R&D・生産）

投資計画

営業・開発

生産

経営企画
財務・管理

開発

人事・総務

営業
財務・経理

生産
営業

生産

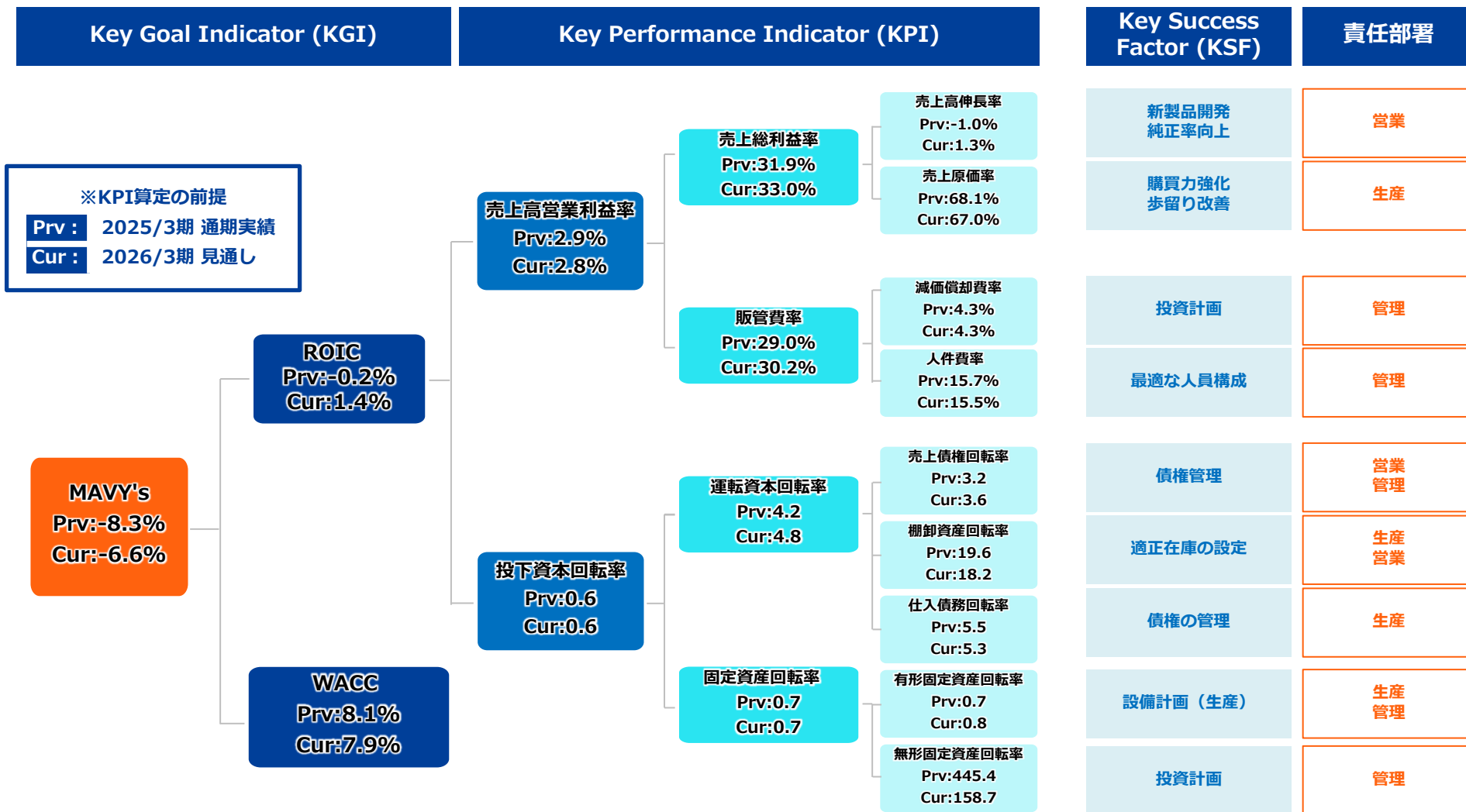
経営企画
総務・生産・開発

経営企画
財務・経理

目指すべき定量目標（エアフィルタ）

1 新商流の開拓（BtoB）

2 高付加価値製品（PFAS・PFOSフリー、CO2、消費電力削減）



※KPI算定の前提

Prv : 2025/3期 通期実績

Cur : 2026/3期 見通し

- ◆ 企業価値を示すMAVY'sの改善は中期経営計画通り着実に進展
- ◆ エアフィルタビジネスの収益改善が経営課題

		2024/3期 実績	2025/3期 実績	2026/3期 見通し
MAVY's		-2.6%	0.1%	0.2%
ROIC		4.9%	8.2%	8.1%
ROE		3.7%	7.8%	8.5%
WACC		7.5%	8.1%	7.9%
建機用フィルタ	MAVY's	-1.7%	2.0%	1.7%
	ROIC	5.8%	10.2%	9.6%
	WACC	7.5%	8.1%	7.9%
エアフィルタ	MAVY's	-6.0%	-8.3%	-6.6%
	ROIC	1.5%	-0.2%	1.4%
	WACC	7.5%	8.1%	7.9%

	2023/3期	2024/3期	2025/3期	2026/3期 見通し	2026/3期 中計
総資産 (百万円)	25,581	25,943	26,642	27,240	27,895
現預金	4,113	5,065	6,014	6,513	6,835
有利子負債	1,406	947	319	1,591	1,803
純資産	20,977	21,299	22,619	22,144	22,091
自己資本比率	82.0%	82.1%	84.9%	81.3%	79.2%
財務レバレッジ	1.22	1.22	1.18	1.23	1.26
WACC	7.5%	7.5%	8.1%	7.9%	7.9%

株主還元（配当金、DOE、配当性向、総還元性向）

	2023/3期	2024/3期	2025/3期	2026/3期 見通し	2026/3期 中計
1株当り 年間配当金	6.0円	6.0円	12.0円	16.0円	16.0円
配当金額 (百万円)	429	428	852	1,115	1,110
自己株式取得 (百万円)	—	466	—	1,278	1,000
連結配当性向 ^{※1}	66.5%	54.5%	49.3%	58.4%	58.1%
配当利回り ^{※2}	1.8%	1.3%	2.1%	1.7%	1.5%
DOE ^{※3}	2.1%	2.0%	3.9%	5.0%	5.0%
総還元性向 ^{※4}	75.6%	121.0%	52.9%	128.4%	113.5%

※1 連結配当性向 = (配当金総額 ÷ 親会社株主に帰属する当期純利益) × 100

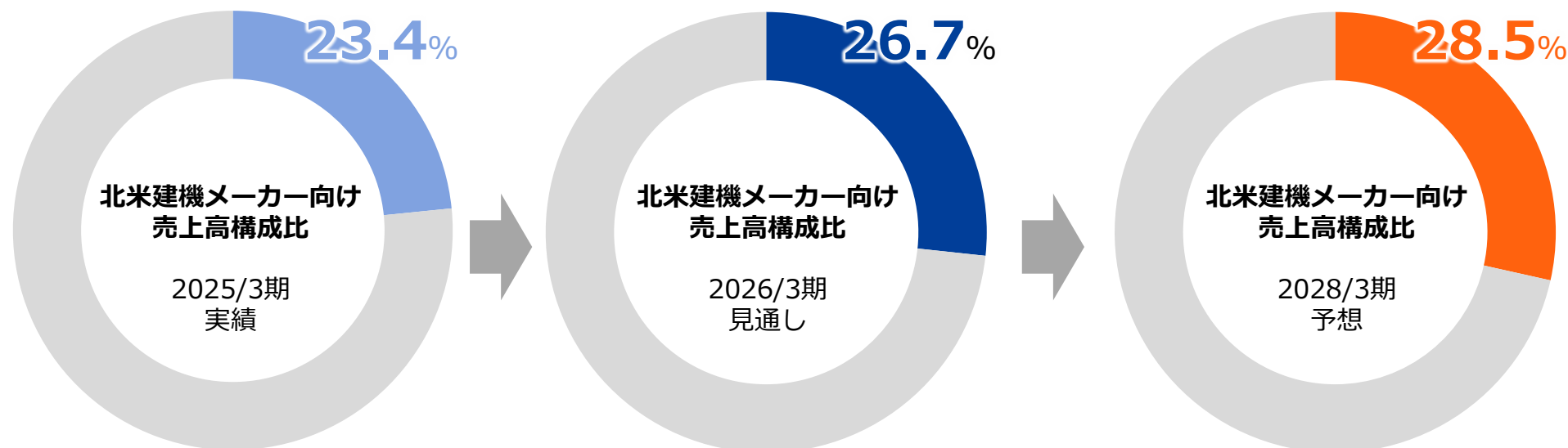
※2 配当利回り = (1株あたり配当金 ÷ 期末日現在の株価) × 100

※3 DOE (株主資本配当率) = (年間配当総額 ÷ 株主資本) × 100

※4 総還元性向 = {(配当金総額 + 株主優待 + 自己株式取得) ÷ 親会社株主に帰属する当期純利益} × 100

- ◆ フィルタろ材の競争力に加えて、機械レイアウトにも配慮した製品を提案
- ◆ 主力の油圧用フィルタで競合他社からシェア奪還に成功
- ◆ 中期経営計画目標の売上構成比23.5%を上回る見通し

■ 北米建機メーカー ■ その他



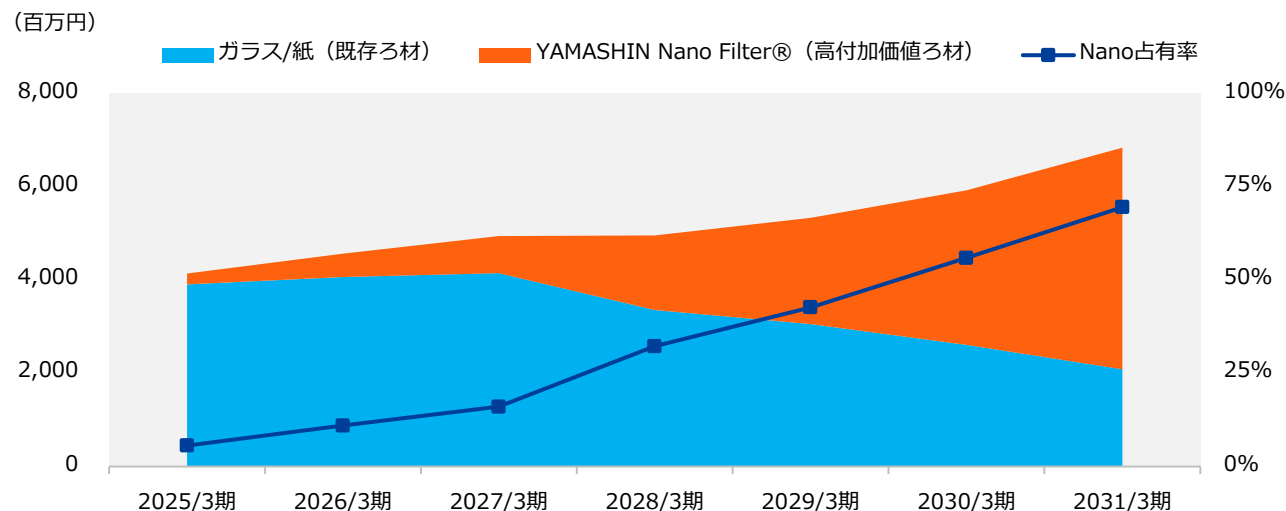
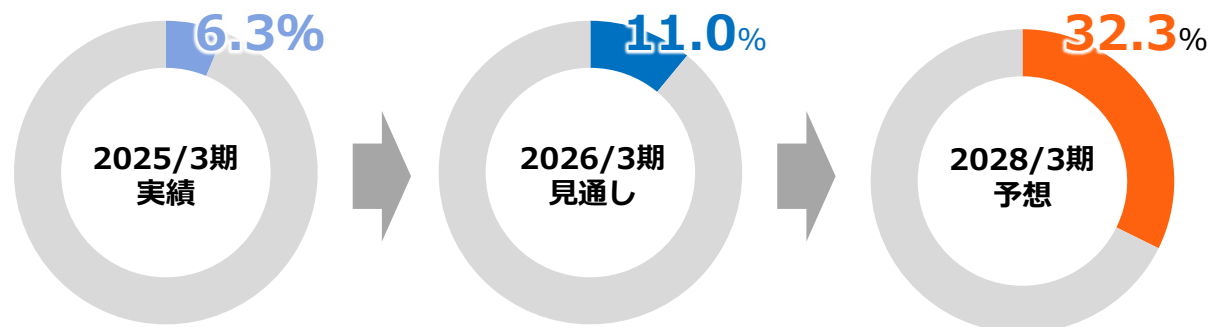
実施
施策

多様な顧客接点×技術シーズによる
高付加価値製品の提案

新規製品の採用獲得

- ◆ ナノファイバー製品への置き換えは着実に進展
- ◆ 顧客ごとに細かいニーズは異なるが、ロングライフ化のトレンドは一致
- ◆ 中期経営計画目標の売上構成比30%を上回る見通し

売上構成比の変化

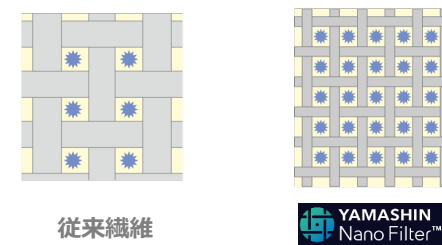


が支持される理由

現行品に比べて
約 **3** 倍のダスト捕獲量

Q.なぜ可能になるのか？

A.繊維径の細さによりダストを捕獲する
ポケット量に違いを作るため



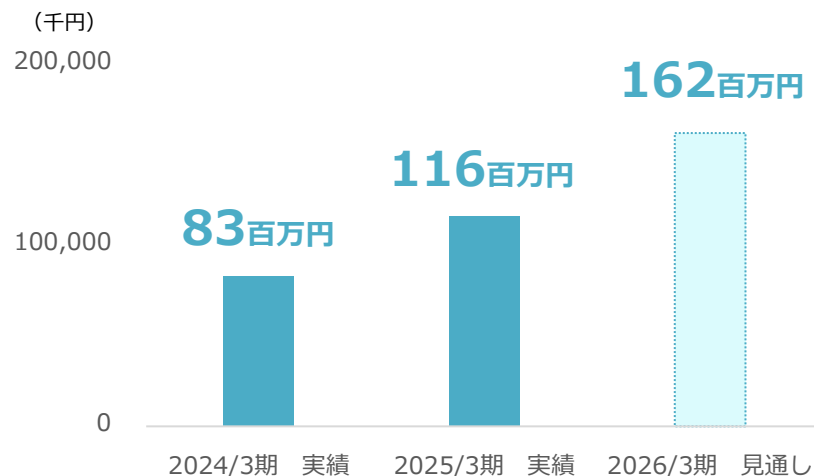
↓
市場が求める
ロングライフ化ニーズと一致

- ◆ ビル建物は交換頻度の変化から、スポット案件の獲得競争が激化
- ◆ 一般工場は保守を中心に安定推移するも、点検計画の見直しには注視

	市場概要	市場環境	
		前期	今期見通し
ビル・建物	オフィス・商業ビル等に設置されている外気取入れユニット・屋内空調等のエアフィルタ	市場は横這いも中性能のスポット案件移行が顕著になり、競争は激化。	フィルタのスポット案件増加傾向が顕著になり獲得競争は激化予想。
一般工場	工場に設置されている外気取入れユニット・屋内空調等のエアフィルタ	定期保守は安定的に推移。大規模修繕に予算が回り工事案件は増加傾向。	定期保守は維持されているが、周期の再検討など保守計画見直しの動き。
半導体工場	ケミカルフィルタの交換市場	引き続き停滞傾向。来期以降に国内新工場の稼働の影響で回復。	前年並みの推移は見られる。上振れするかはまだ見通しは不透明。
環境機器	一般家庭で使われる住宅空調・空気清浄機のエアフィルタ	減少傾向が鮮明化。住宅メーカーは資材調達価格の抑え込みを図っている。	減少傾向。住宅メーカーによるコスト抑え込み要求は激化。
車両	鉄道等の空調用エアフィルタ 建機の粉塵用エアフィルタ	交換需要は堅調を維持。新規市場（リニア）の動きは停滞から少し動き出す兆候が見えだす。	交換需要は堅調を維持。リニア部品は動き出しているが大きな量産にはまだ辿り着いていない。

- ◆ BtoB分野では性能や品質が重視されるため、当社の強みとマッチング
- ◆ 価格競争力も必須のため、商流の短縮化・簡素化で顧客要求に対応する

BtoB直販領域における実績と計画



- BtoB分野の客先開拓が軌道に乗り安定的に伸長
- 代理店を介さないため技術営業（性能や品質に関する訴求）を実施することで、受注確率が高められる

導入実績の状況

一般空調だけでなく環境貢献の分野へ
Nanoシリーズも更なる高精度化することで
ミストコレクタ分野に進出

ミストコレクタ (大手機械メーカー)



国内最大クラスの工作機械メーカーにOEM品として採用されているNanoシリーズの準HEPAクラス。既に量産機種にも搭載されており、展示会でも好評。

ミストコレクタ (中規模専門メーカー)

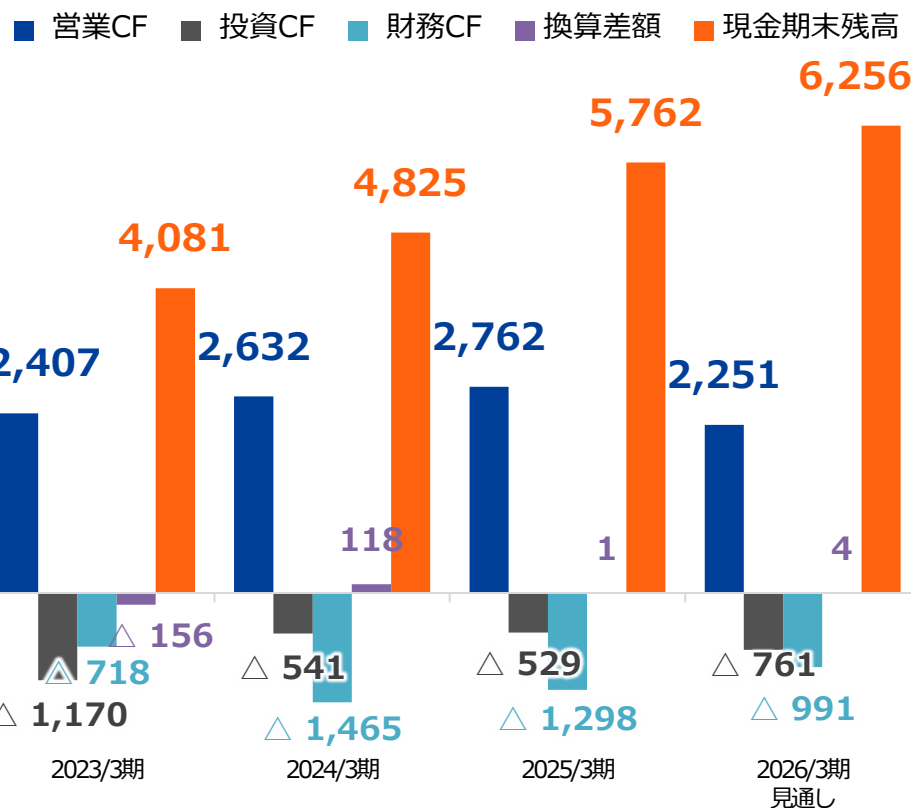


競合他社との性能比較で高評価を得て標準装備品での採用を勝ち取った。一部シリーズには既に導入されており、他機種での横展開採用も検討中。

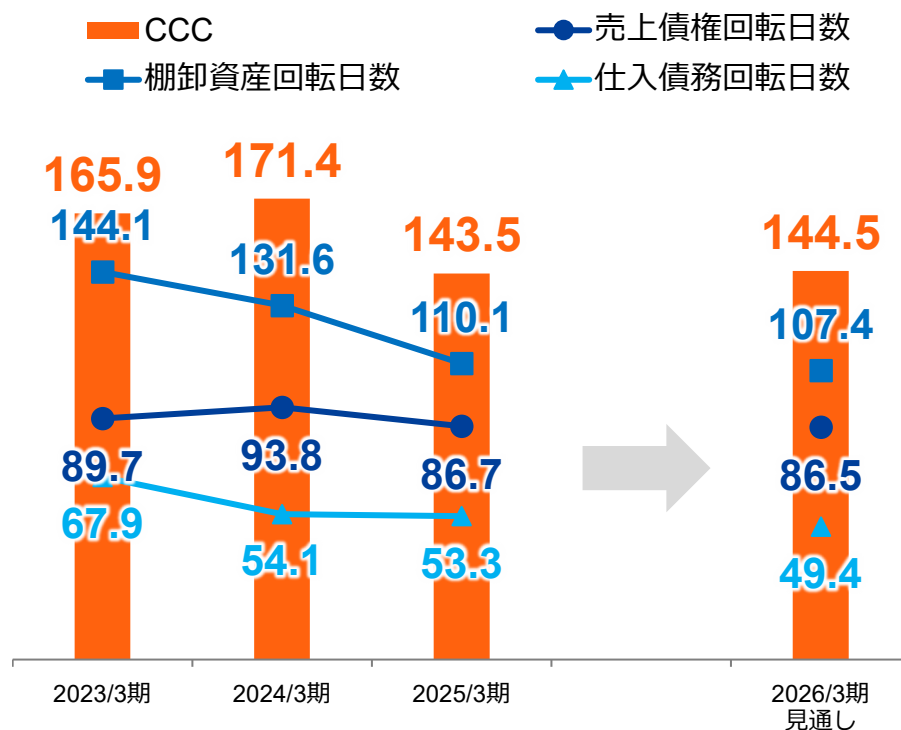
- ◆ 連結業績改善により潤沢なキャッシュフローを維持
- ◆ サプライチェーンの最適化、在庫水準管理の徹底により資金効率は大幅に改善

■ キャッシュ・フロー

(単位：百万円)



■ キャッシュ・コンバージョン・サイクル

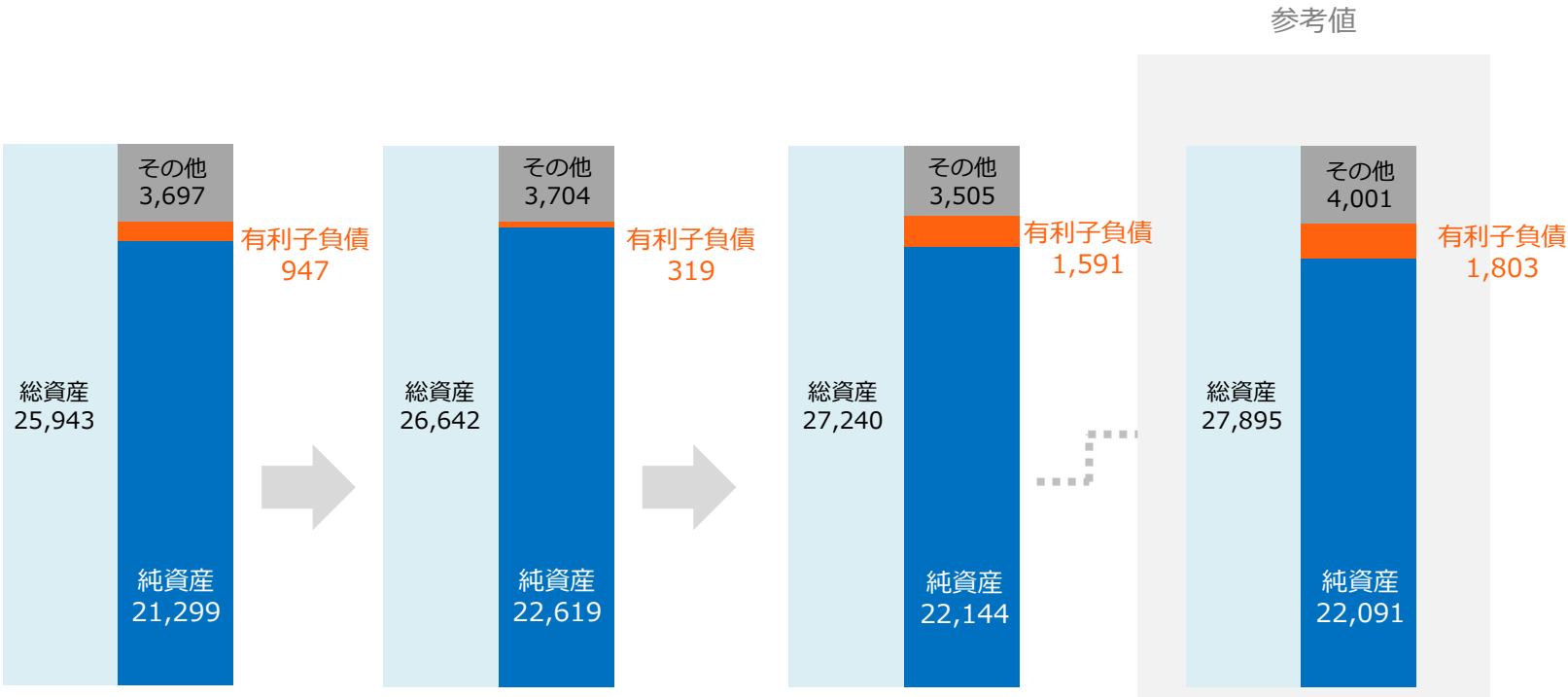


資本政策進捗
(総資産、自己資本比率、財務レバレッジ、WACC)



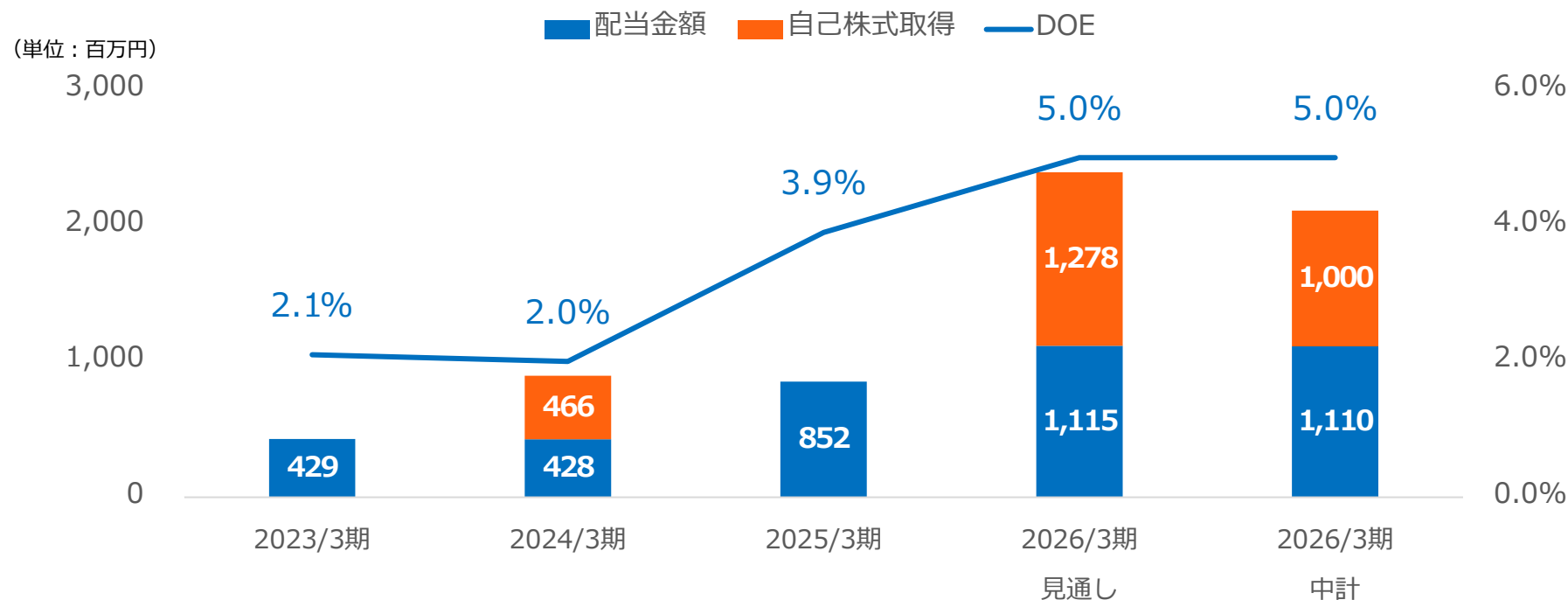
◆ 資本政策の見直し、財務レバレッジ効果により自己資本比率低減とWACCの低減を図る

(単位：百万円)



	2024/3期実績	2025/3期実績	2026/3期 見通し	2026/3期 中計
自己資本比率	82.1%	84.9%	81.3%	79.2%
財務レバレッジ	1.22	1.18	1.23	1.26
WACC	7.5%	8.1%	7.9%	7.9%

◆ 配当と自己株式の取得含めた資本政策の見直しにより高い株主還元を実現



	2023/3期	2024/3期	2025/3期	2026/3期 見通し	2026/3期 中計
1株当たり 年間配当金	6.0円	6.0円	12.0円	16.0円	16.0円
総還元性向※	75.6%	121.0%	52.9%	128.4%	113.5%

※ 総還元性向 = {(配当金総額 + 株主優待 + 自己株式取得) ÷ 親会社株主に帰属する当期純利益} × 100



この資料に記載されている業績の見通し等将来に関する情報は、現在入手可能な情報に基づいて作成しております
実際の業績は市場動向や業績情勢等の様々な要因等によって異なる可能性があります

この資料に関するお問い合わせは ヤマシンフィルタ株式会社 広報・IR担当まで

TEL

045-680-1680

E-mail

ir@yamashin-filter.co.jp